

日本史 A, 日本史 B

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

日 本 史 A

1 前 文

3年目の共通テストとなる。全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 授業の課題で近現代の都市と水道の歴史を調べることになった高校生二人の会話から、幕末～1990年代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、社会経済史、文化史に関する小問で構成され、文献資料、調査結果の表を用いたものがみられた。

問1 会話文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。一方は「開港当初から国内最大の貿易額をあげていた」都市を、もう一方は「台湾では総督府民政長官で、関東大震災後には帝都復興院総裁にもなった」人物を正確に理解できているかが問われた。

問2 明治期の人物や事柄を示す二文から、それらが示す人物や語句の組合せを選択する問題。人物や語句とそれらを示すキーワードの結びつきが問われ、人物や事柄の正確な理解が求められた。

問3 1890年の史料と同時代の地方制度に関して、正文の組合せを判断する問題。当時の地方制度について、正確な理解と史料を丁寧に読み解く力が求められた。

問4 植民地時代の朝鮮の史料や表の内容を読み取り、文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。史料や表を丁寧に読み、判断する力が求められた。

問5 戦時下における史料の内容を読み取り、二文の正誤を判断する問題。史料を丁寧に読み解く力が求められた。

問6 戦後の農村や農業の変化に関する三文の整序問題。農業に関する課題の過程を正確に理解できているかが問われた。

問7 20世紀前半の都市と生活に関する四文から、誤文を判断する問題。都市の発展や社会情勢を正確に理解できているかが問われた。

第2問 「パスポートの歴史」展における解説文から、幕末～明治時代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、社会経済史、外交史、文化史に関する小問で構成され、文献資料を用いたものがみられた。

問1 幕末の人物を示す二文から、それらが示す人物の組合せを選択する問題。人名とその人物を示すキーワードの結びつきが問われ、人物の正確な理解が求められた。

問2 明治期の船舶や海運に関する三文の整序問題。明治期の政治の動向や航路の発展を正確

に理解できているかが問われた。

問3 史料として提示された「旅券」と解説文を読み取り、二文の正誤を判断する問題。史料を丁寧に読み解く力と憲法の規定についての正確な理解が求められた。

問4 台湾における日本国籍付与の原則を記した史料と日本の支配に関して、正文の組合せを判断する問題。当時の台湾統治について、史料を丁寧に読み解く力と正確な理解が求められた。

第3問 高校生二人の発表に向けてのメモから、明治時代～昭和時代初期までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、文化史、思想史、外交史に関する小問で構成され、文献資料を用いたものがみられた。

問1 メモの文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。一方は「民友社が創刊し、平民主義をとらえた雑誌」名を、もう一方は「政府が自由民権運動に対して1887年に制定した」治安立法を正確に理解できているかが問われた。

問2 1880年代の自由民権運動に関する三文の整序問題。自由民権運動の展開を正確に理解できているかが問われた。

問3 二つの史料「幸徳秋水が執筆した文章」と「異なる主義・主張を持つ明治前期の啓蒙思想家が執筆した文章（福沢諭吉の『学問のすゝめ』の一部である）」を読み取り、史料について述べた四文から、正文を判断する問題。幸徳秋水の社会主義思想についての正確な理解と史料を丁寧に読み解く力が求められた。

問4 天津条約に関する四文から、正文を判断する問題。天津条約の内容についての正確な理解が求められた。

問5 史料『原敬日記』の内容を読み取り、二文の正誤を判断する問題。史料を丁寧に読み解く力が求められた。

問6 原敬内閣の政策を示す二つの事柄から、それらが示す文の組合せを選択する問題。事柄とその事柄を示すキーワードの結びつきが問われ、事柄の正確な理解が求められた。

問7 原敬暗殺後の立憲政友会総裁に関する四文から、誤文を判断する問題。第4代総裁高橋是清、第5代総裁田中義一という人名はなく、内容から人物を想起し、判断する必要があった。大正末期から昭和初期までの政治史や外交史を正確に理解できているかが問われた。

第4問 日本の漁業と対外関係について述べた文章から、明治時代～1990年代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、社会経済史、外交史、文化史に関する小問で構成され、文献資料、グラフを用いたものがみられた。

問1 漁業に関する史料とグラフを読み取り、ロシア沿岸における日本漁船の漁獲量の特徴について述べた四文から、正文を判断する問題。史料やグラフを丁寧に読み解く力と当時の日本の経済状況についての正確な理解が求められた。

問2 作品の特徴を示す二文から、それらの作品が制作された時期について述べた文の組合せを選択する問題。文の内容から時期を想起し、判断する必要があった。明治期から昭和初期の社会背景についての正確な理解が求められた。

問3 大正期から昭和初期の外交に関する三文の整序問題。当時の日米関係の推移を正確に理解できているかが問われた。

問4 史料を読み取り、四文から正文の組合せを判断する問題。当時の日本の対外政策について、正確な理解と史料を丁寧に読み解く力が求められた。

問5 文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。一方は日本が独立国として主権を回復した条約を、もう一方は佐藤内閣により締結され、国交を回復した条約を正確に理解でき

ているかが問われた。

問 6 高度経済成長期の社会に関する二文の正誤を判断する問題。高度経済成長の特徴やひずみを正確に理解できているかが問われた。

問 7 魚介類の国民一人当たり消費量と、魚介類の自給率の特徴について示したグラフを読み取り、グラフについて述べた四文から、正文を判断する問題。グラフを丁寧に読み解く力と当時の社会背景についての正確な理解が求められた。

第 5 問 近現代の女性の地位について探究している高校生三人のメモから、明治時代～1940年代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、思想史、法制史に関する小問で構成され、文献資料を用いたものがみられた。

問 1 メモ中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。一方は「森有礼や中村正直らによって結成された団体の機関誌である」雑誌名を、もう一方は『東洋大日本国国憲按』を起草した人物を正確に理解できているかが問われた。

問 2 史料『明治民法』の内容を読み取り、二文の正誤を判断する問題。史料を丁寧に読み解く力が求められた。婚姻の際、一定年齢に達している場合は同居する父母の同意を必ずしも要しないが、戸主の同意は必ず得なければならないことを注意して読み取る必要がある。

問 3 明治期から大正期までの社会主義や労働運動に関する三文の整序問題。社会主義運動の過程を正確に理解できているかが問われた。

問 4 大正期に新婦人協会が議会で提出した請願書を示した史料に関して、正文の組合せを判断する問題。新婦人協会の思想と影響について、史料を丁寧に読み解く力と正確な理解が求められた。

問 5 市川房枝の思想を記した史料を読み取り、その内容と大政翼賛会について述べた四文から、誤文を判断する問題。史料を丁寧に読み解く力と新体制運動の特徴についての正確な理解が求められた。

問 6 敗戦後の女性の社会的地位に関連する人物や事柄を示す二文から、それらが示す人物や語句の組合せを選択する問題。人物や語句とそれらを示すキーワードの結びつきが問われ、人物や事柄の正確な理解が求められた。

問 7 近現代の女性の地位に関する四文から、正文を判断する問題。近現代における民法や女性の地位についての正確な理解が求められた。

【総合所見】内容については、学習指導要領の目標に則しての出題であった。

史資料を用いて読解力や分析力を問う姿勢が今年度も強く示され、提示された史資料は選択肢となっているものを除くと 3 種 17 点と、昨年度の 3 種 8 点から大幅に増加した。昨年度は提示された地図や写真については、今年度はなかったものの、新たにグラフが提示され、受験者にとっては初見と思われる史資料を論理的に読み取り、考察する力が昨年度以上に求められた。提示された史資料は工夫されたものが多く、例えば [4] で扱われた表や史料は、高等学校教科担当教員にとっても、日本の朝鮮支配を水道整備の面から考える教材として興味深く、授業で活用したいと思わせてくれた。また、[19] と [25] は、日本の漁業に関して示したグラフから、当時の日本社会の特徴について、経済面・外交面等包括的な理解を踏まえた上で考察し、判断が求められる良問であった。

昨年度と同様、正確な理解や考察力を求める問題が多く、理解の質や考察力が細やかに量られている。求められた理解は、人物や事柄などを他の事柄と関連付けながら正確に理解するというもので、例えば [7]・[15]・[18]・[32] は、基礎的理解を基にして事柄の結果や影響を考察する問であり、基礎的な範囲を超えないものであった。

範囲については、第1問で幕末から1990年代までの時期、第2問で幕末から明治時代までの時期、第3問で明治時代から昭和時代初期までの時期、第4問で明治時代から1990年代までの時期、第5問で明治時代から1940年代までの時期が扱われ、戦後史に関わる問いが6題ある等、幕末から現代まで偏りなく出題され、政治史、社会経済史、外交史、文化史等分野のバランスも良かった。

3 分量・程度

60分の試験時間に対して、問題数は大問が5題、小問が32題で、昨年度と同様であった。史資料が昨年度より大幅に増加した分、読解にやや時間を要したと思われるが、基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体であり、分量・程度とも適切であったといえる。ただ、コレラ(2)や高度経済成長期における工業地帯や四大公害の原因(24)等、歴史的分野以外の要素が色濃く出ている内容もみられた。

4 表現・形式

史資料の提示を含め、問題文の表現は明確であり、選択肢の文も簡潔に記述されていた。史資料についても、極端に難解なものはなく、脚注が丁寧に付され、丁寧に読むことで受験者が正確な判断ができるよう配慮されていた。形式については、高校生による調べ学習や会話、発表に向けたメモ等、具体的な学習場面から構成される例年通りの大問が中心であったが、今年度は展示の解説文から構成される大問も出題された。また、一昨年度にみられた年表の形式は、昨年度に続き今年度もなかった。小問でみると、32題のうち、空欄に適する語句の組合せを選択する問題が5題、二文や二つの事柄からそれらが示す人物や語句、正文の組合せを選択する問題が5題、正文の組合せを判断する問題が4題、二文の正誤を判断する問題が5題、三文の整序問題が5題、四文から正文を判断する問題が5題、四文から誤文を判断する問題が3題であった。

5 ま と め(総括的な評価)

3年目を迎えた大学入学共通テストは、基本的事項の正確な理解や思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、受験者の培ってきた力や理解を評価するのにふさわしい問題であったと評価したい。全体として、史料が昨年度から倍増し、グラフを扱う問いも出題されるなど、史資料の情報をこれまでの学習で得た知識と関連付けて判断させたいという出題意図が感じられた。また、第1問は都市と水道、第2問はパスポート、第3問は中江兆民と原敬、第4問は漁業、第5問は女性の地位がテーマとして取り上げられ、高校生が興味・関心を比較の持ちやすい視点から歴史を掘り下げる形で問われていた。ただ、小問それぞれが独立した設問となっており、リード文を含めた大問全ての情報を読み取り、総合的に判断するものが今回はなかった。この点については次年度に期待したい。

現在、高等学校の現場では、限られた時間の中で、従来の知識偏重になりがちであった指導から、史資料から読み取った情報を知識と関連付けて論理的に活用する等、思考力・判断力・表現力等を育成する指導への転換が、指導と評価の一体化とともに図られている。今回の共通テストは、昨年度以上にそのような資質・能力と、大学入試で問われる資質・能力の整合性が明確に示されるものであった。

最後に、共通テスト問題作成に関係した方々の多大なご尽力に、心から敬意を表します。

日 本 史 B

1 前 文

3年目の共通テストとなる。全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 肖像（絵画・彫刻・写真）をテーマに高校生が行った日本史の自由研究から、古代～現代に至る諸分野について幅広く出題がなされている。表や図の読み取りが多くあった。

問1 歴史上著名な人物の肖像を活躍した時代と分野に分類した表から、歌川広重と小村寿太郎が活躍した時代の分野の特徴を読み取る問題。二人の人物が活躍した時代区分の知識を求めており、表の読み取りは平易であった。

問2 飛鳥・江戸・明治時代の女性の絵画を、古いものから年代順に配列する問題。各絵画の時代について基本的な知識が求められた。

問3 短文の読み取りから日本史に登場する二人の外国人を特定し、その最初の上陸地点と来航ルートを地図上の選択肢からそれぞれ判断する問題。フランシスコ＝ザビエルとペリーの活動に関して、正確な知識と理解が求められた。近代にアメリカ船が日本に来港する背景として、アメリカは北太平洋を航海する対清国貿易船や捕鯨船の寄港地として日本の開国をのぞんでいたと学ぶ。それを理解していた生徒にとっては、太平洋を横断する航路dは判断に迷う選択肢だったと考えられる。

問4 四つのメモを参考にしながら、肖像画の真偽を検証する際に必要のない方法を選択する問題。メモから読み取った歴史的事実を踏まえた上で、検証に必要な方法や情報を考える思考力・判断力・表現力等が求められた。仮説の検証という問題形式は解答の根拠を明確にするのが難しいが、メモや選択肢の文章が簡明であるため、判断は容易であったと考えられる。

問5 二つの天皇の肖像から読み取れる特色と、時代ごとの天皇像の違いについて考察する問題。密教と禅宗に関する正確な知識と、読み取れた事実から時代ごとの天皇の位置づけを一般化する考察力が求められた。解答する上で「後醍醐天皇」と「明治天皇」の二人を肖像画から特定する必要はなかった。

問6 紙幣に使われた人物の一覧表から、その時期に、その人物が選ばれた歴史的背景を考察させる問題。近代の政治体制や1980年以降の社会情勢などへの基本的な理解が求められた。Yの文章から直観でcを選択することもできるため、表2からの読み取りや選択肢の表現について工夫があると良かった。

第2問 古代の奈良・京都について調べた高校生二人の会話を基に、飛鳥時代から平安時代までの政治・社会、文化について問う問題。特に仏教文化に関連する設問が多かった。

問1 天平文化の二つの文化財に関して、空欄に入る正しい説明文を選ぶ問題。仏像とその製作技法、天平文化と大陸文化の関連などに関しての正確な知識と理解が求められた。

- 問2 行基に関して述べた四文の中から、誤文を判断する問題。光明皇后が設けた施薬院・悲田院の知識など、仏教信仰を背景にもつ奈良時代の社会事業に関する正確な知識が求められた。
- 問3 古代の宮・都に関係する史料を、古いものから年代順に配列する問題。史料文中の語句から宮・都や年代を判断する思考力・判断力・表現力等と、宮・都の変遷に関する正確な知識と理解が求められた。奈良時代に山背国の「恭仁京」に遷都しているのに、Ⅱの遷都が平安時代の遷都と判断するためには、「葛野郡」が平安京の地であること、「紀古佐美」が平安時代の人物であること、などの知識が必要とされた。受験者にとっては難しかったと考えられる。
- 問4 空海に関わる史料について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。注釈を活用し、主語や時系列に留意しながら史料を丁寧に読解する技能が求められた。
- 問5 古代の寺院と仏教に関して述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。奈良時代から平安時代までの仏教に関して基本的な知識と理解が求められた。
- 第3問 中世の人々の暮らしと考え方について研究発表することになった高校生二人の会話を基に、中世の土地制度史と、それに関連する政治史・文化史などの諸分野について問う問題。
- 問1 中世の人々の暮らしと考え方に関するメモを読み、空欄に適する語句や用語の説明文の組合せを選択する問題。中世の土地制度や宗教観への基本的な知識が求められた。
- 問2 延久の荘園整理令について考察した四文を読み、内容上の正文を判断する問題。延久の荘園整理令の内容や、荘園公領制の確立に与えた影響について正確な知識と理解が求められた。
- 問3 鎌倉～戦国時代までの土地政策や税制について述べた三文を、古いものから年代順に配列する問題。中世の土地政策の変遷について正確な理解が求められた。説明文の読み取りから「貫高制」・「新補地頭」・「半済令」という知識と結びつけ、その上で年代を整理することが必要であった。
- 問4(1) 室町時代の荘園に関して、名による枡の違いについてまとめた表と、荘園領主と荘官のやりとりに関する史料を読み、表や史料から読み取った荘園支配の実態について述べた四文の中から、二つの正文の組合せを選択する問題。問題文や表・史料を総合的に読解する技能や、思考力・判断力・表現力等が求められた。
- 問4(2) 問4(1)で利用した表・資料と追加史料を関連させ、中世に異なる枡が使用された理由と影響について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。史資料を丁寧に読み取った上で、中世の在地社会のあり方に関して総合的に考察する力が求められた。
- 第4問 江戸時代の文芸や演劇と歴史的な出来事に関連について調べた高校生二人の会話を基に、江戸時代の政治・外交史、社会経済史及び文化史などについて問う問題。
- 問1 江戸時代の歴史的な出来事に関するメモを読み、それぞれの出来事について述べた四文の中から、正文を判断する問題。江戸時代の社会経済や外交制度、政治的事件について、正確な知識や理解、年代観などが求められた。
- 問2 佐倉惣五郎を題材とした歌舞伎作品に関して述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。江戸時代の百姓一揆についての基本的な知識と、寄席と村芝居の区別という江戸後期の町や村の庶民生活について正確な理解が求められた。
- 問3 江戸幕府の出版統制について述べた三文を、古いものから年代順に配列する問題。幕府の出版統制や洋学に対する政策について正確な知識と理解が求められた。「林子平」、「松平定信」、「蛮社の獄」、「徳川吉宗」などの人名や出来事の名称が用いられなかった。

- 問4 江戸時代後期の文芸作品の一部を引用した史料を読み，作者について説明した文の空欄に適する文や人名の組合せを選択する問題。恋川春町が得意としたジャンルと年代観に関する知識や理解が求められた。一方で，基本的な知識があれば史料文の読み取りがなくとも解答に至ることができた。
- 問5 『修紫田舎源氏』について異なる時代の評価文の史料を読み，史料について考察した四文の中から二つの正文の組合せを選択する問題。注釈を活用しながら史料を丁寧に読解する技能と，徳川家斉の大御所政治について正確な知識と理解が求められた。
- 第5問 「パスポートの歴史」に関する解説文を基に，幕末から明治時代までの政治・社会経済・文化・外交などの諸分野から幅広く出題された。
- 問1 パリ万国博覧会について述べた二文を読み，適する語句の組合せを選択する問題。江戸時代の絵師と幕末から明治時代にかけて登場する外国人の事績について基本的な知識が求められた。
- 問2 1870年代から90年代にかけての海運の歴史について述べた三文を，古いものから年代順に配列する問題。明治時代の政治・外交・経済の各分野について，年代観に関する正確な知識や理解が求められた。
- 問3 明治二十四年に発行された旅券（パスポート）に関して述べた二文を読み，正誤の組合せを判断する問題。A・Bの解説文にある旅券の役割の理解を前提に，史料を読解する技能と，大日本帝国憲法下における天皇と内閣（各国务大臣）の関係性に関する正しい理解が求められた。図1の日本初の旅券は，実物が原文で提示されており興味深い資料であったが，設問に直接関係しなかった。
- 問4 植民地台湾での日本国籍付与に関する二つの史料について述べた四文を読み，二つの正文の組合せを選択する問題。史料の丁寧な読解を踏まえ，日本の台湾支配に関する基本的な知識と，台湾での日本国籍付与の原則に関する思考力・判断力・表現力等が求められた。
- 第6問 近現代における日本の漁業と対外関係について述べた文章を基に，明治時代から平成時代までの政治・外交史や社会・経済史及び文化史などの諸分野について問う問題。
- 問1 日露漁業協約の史料とロシア沿岸での漁獲量に関する表について考察した四文の中から，正文を判断する問題。史料や表を丁寧に読解する技能に加え，日露戦争後から1930年代初頭までの国内経済や日露関係と関連付けて考察する力が求められた。
- 問2 二つの文化作品がつけられた時期の社会状況について述べた四文の中から，二つの正文の組合せを選択する問題。作者から大まかな時期を推定する年代観と，明治～昭和初期にかけての社会状況に関する正確な理解が求められた。
- 問3 大正～昭和初期の日米関係について述べた三文を，古いものから年代順に配列する問題。第一次世界大戦期以降の日米関係の推移について基本的な知識が求められた。
- 問4 日本の漁業協議会の議事録を読み，当時の中国情勢と漁業における日中関係について述べた四文の中から，二つの正文の組合せを選択する問題。史料を丁寧に読解した上で，1920年代の中国情勢に関する基本的な知識と，思考力・判断力・表現力等が求められた。
- 問5 アジア太平洋戦争後の日本の漁業について述べた文章を読み，空欄に入る正しい条約名を選ぶ問題。戦後の独立と独自外交について基本的な知識が求められた。
- 問6 高度経済成長期について述べた二文を読み，正誤の組合せを判断する問題。高度経済成長が社会経済に与えた影響に関して基本的な知識や理解が求められた。
- 問7 現代の魚介類の消費量と自給率に関するグラフを読み取り，大まかな年代ごとの社会状況を考察した四文の中から正文を判断する問題。グラフから特徴を読み取る技能と，10～20

年の区切りごとの社会状況の変化に関して正確な理解が求められた。

3 分量・程度

(1) 分量

昨年と同様、問題数は大問6題、小問32題であった。そのなかで政治史、社会・経済史、文化史、外交史といった諸分野が横断的かつバランスよく出題されていた。絵画や人物の肖像画、地図、初見の文字史料、近代の旅券（パスポート）の実物、統計資料など、多種多様な史資料からの読み取りや考察が多く出題されたため、丁寧に史資料の読解に取り組む必要はあるが、リード文や会話文などが簡潔であり、かつ史資料の文量が適量なので、試験時間（60分）と問題数に鑑みればおおむね適切な分量と評価できる。

(2) 程度

問題の程度については、学習指導要領が求める資質・能力に適しており、歴史的な背景や意義まで含めた体系的な内容の理解を問う問題や、史資料の読解を通じて思考力・判断力・表現力等を測る問題がバランスよく配置され、おおむね適正であったといえる。肖像画など多種多様な史資料については、注釈や設問文の情報を総合的に加味すれば十分に読解可能であった。また、年代整序問題以外にも年代観や時系列を判断する問題が多くあり、大まかな時代区分ごとの理解に加え、因果関係に留意して歴史を論理的に考察する力が求められたのは良かった。ただし、**5**の「禅宗の座具」と「密教法具」（独鈷）、**9**の紀古佐美、**32**のインスタント食品の登場時期などについては、知識理解として問うにはやや細かい内容だったように感じる。

4 表現・形式

(1) 表現

全体を通じて特に難解な表現はみられなかった。選択肢についてもおおむね簡潔に述べられている。思考力・判断力・表現力等を問うという意図から、人名や歴史用語を極力使用せずに言葉の定義や事象の説明を考えさせることで、学習内容の確かな理解を測る工夫が多くみられた。ただし、**6**の問題文にある「特徴」が、人物の特徴を表しているのか、発行時期の特徴を表しているのか、ややわかりにくい表現があった。

(2) 形式

昨年度同様、調べ学習や成果発表など学習の具体的な場面を想定した形式の出題がみられた。受験者は様々な形で史資料と向き合い、読解することが求められる構成となっており、思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に適した形式であった。選択肢については、単純な語句補充問題が少なく、説明文の補充問題、組合せの形式、年代整序、正誤判断など様々な形式の問題がバランスよく用いられていた。文字史料を扱った問題が全時代にわたって多くみられ、**15**のように解答のための多くの情報整理が必要な場合は、原文を用いず大意を現代語訳にするなど、測りたい力を焦点化する工夫がみられた。ただし、地図問題が一つのみであり、地理認識を問う問題がもう少し出題されても良かったように思う。

5 まとめ（総括的な評価）

今年度の共通テストは、知識・理解と思考力・判断力・表現力等という二つの領域を組み合わせながらバランスよく問うことに配慮がなされた問題であった。昨年度以上に多種多様な史資料が多く用いられ、読解の観点や判断基準は明確化されていたが、**20**では「恋川春町」について基本的な知識を理解していれば史料を読む必要がなかった。史資料の活用はより一層の改善を促したい。

25・26の問題では、「国民」の定義や、日本近海での漁場をめぐる問題がテーマとして扱われた。これらはどちらも現在の日本が抱える国際的な課題でもある。日本史の学びが遠い昔のことを知るだけではなく、現代の諸課題を考える視点をもつことにつながるという示唆に富んだ問題であったと評価したい。さらに、15・16のように、大問の最後に大問全体での学びを総括するような設問がみられた。生徒の学習過程では、学習して得た知識を有機的に結びつけ、考察する活動は最も重要だと考える。「調べただけで終わり」となりがちな授業への提言も含め、まとめとなる設問は今後も継続してほしい。一方、第2問の古代が仏教文化に、第3問の中世が土地制度に関する出題がそれぞれ多いなど、大問内では分野の偏りが見られた。通史で学ぶ利点を踏まえ、一つの時代区分の中でも分野のバランスには留意してほしい。